

空 楽 々

[555]

2016
秋



2016年度後期スタート

2016年度も後期に突入しました。

9月の秋雨前線の停滞と同様に、仕事が忙しくて学習が停滞気味で当初の履修計画通りに進んでいないという方もいるかと思います。そこで、今回は2月の最終締め切りまでの過ごし方という観点で特集してみました。



10月

レポート：11日（火）
制作課題：25日（火）

12・1月開講スクーリング申込
(10/1-10/7) **【消印有効】**

秋の収穫祭2016

秋の収穫祭は、通信教育課程の恒例行事です。教員が全国各地を行脚して地域に密着した公開講座を開催します。詳細はサイバーキャンパスを確認してください。

10月22日（土）愛知県岡崎市
「国際展による地域の再創造。あいちトリエンナーレの試みから」

11月19日（土）熊本県熊本市
「熊本城のいま—熊本地震からの復興にむけて—」

11月20日（日）島根県松江市
「小泉八雲、民話をめぐる旅」

11月

レポート：10日（木）
制作課題：25日（金）

第5・6回単位修得試験申込
(11/1-11/7) **【消印有効】**

12・1月開講スクーリング追加
募集申込 (11/1-11/7) **【消印有効】**

12月

レポート：10日（土）
制作課題：26日（月）

2・3月開講スクーリング申込
(12/1-12/7) **【消印有効】**

2017年度学籍更新手続受付期間
(12/1-1/20) **【必着】**

来年度復学・休学の方は忘れないように

第5回単位修得試験 (12/3)
第6回単位修得試験 (12/4)

1月

レポート：10日（火）
※制作課題は2月受付

第7・8回単位修得試験申込
(1/1-1/7) **【消印有効】**

2・3月開講スクーリング追加
募集申込 (1/11-1/16) **【消印有効】**

2月

レポート：10日（金）
制作課題：10日（金）
※ここが最終締め切りです

第7回単位修得試験 (2/4)
第8回単位修得試験 (2/5)

3月

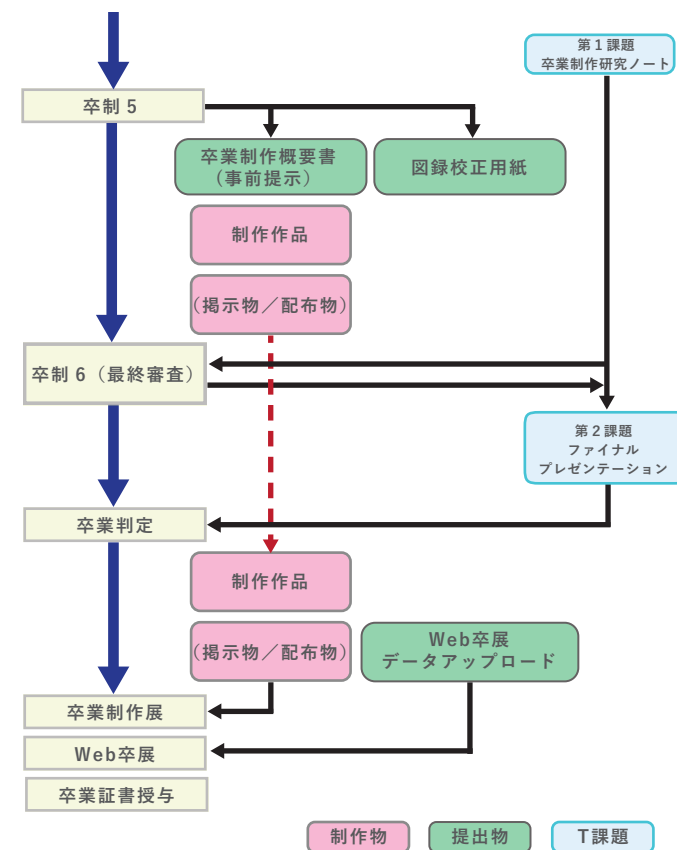
2017年度卒業制作着手申請期間
(3/1-3/15) **【必着】**

卒業制作着手の方は絶対忘れないように

【卒業制作着手仮要件】

- ・コース専門演習テキスト科目：1年次／2年次配当分を合格（8科目・16単位）
- ・コース専門演習スクーリング科目：1年次／2年次配当分を合格（12科目・12単位）
- ・学部共通専門教育課題：8単位以上 ※2010年度以降の入学者は必修3科目合格で要件クリア
- ・その他 ※1年次入学生の方は合計80単位以上の取得で要件クリア

※卒業制作着手中の方へ 【卒制5以降の流れ】



空デ・秋冬のイベント

秋以降、通信教育部やコース研究室が主催のイベントだけでなく、近年は学生有志が主催するイベントも数多く開催されています。(忘年会、新年会の時期でもありますので!?)
共に学ぶ空デメンバーとの交流を深めるとともに、大学生活での有意義な時間を過ごしてください。

■東京懇親会：12月10日(土)

東京・外苑キャンパスにて通信教育部の全体イベントとして開催されます。昨年は尾池学長の特別講義と和太鼓の演奏、そして恒例の立食パーティーが行われました。



■大忘年会：12月中旬?

一昨年、去年と二年連続して在校生主催の「空間演出デザインコース大忘年会」が京都市左京区元田中の「天寅」にて開催され、在校生・卒業生・教員含めて70名以上が参加しました。今年の開催は現時点で情報がありませんが、乞うご期待!



シラバス p.47 に「デザインに関わる人は、やはり本を読まなければいけません」と記載されている通り、大学から配本されているテキストや参考文献だけでは制作の幅は広がりません。疑問点はネットで調べればかなりのことが判明する時代ではありますが、それは一つの側面からの解にすぎないかもしれません。いろんな側面で物事を捉える・考えるためにも、たくさんの本を読んでおくのも悪く有りません。読書の秋でもありますので、直接課題に関係ないかもしれませんが、編集部独断で

デザインに関わる本を幾つか紹介したいと思います。
また、学友達と集まって学習会を開催することが有ると思いますが、テキスト課題に着手するだけでなく、今までも様々な視点からコース内で学習会が開かれていますので、こちらも紹介しておきます。(奇しくも食欲の秋に相応しいテーマ!?)
このような機会を通して、新しい知識を得たり、興味が生まれたりすると幸いです。



問題解決に効く「行為のデザイン」思考法
(2015年／CCCメディアハウス)

著者：村田 智明

ユーザーの動き・行為の観察からプロダクトに潜在するバグを事前に発見し、それを新しい形へと可視化していく考え方とともに多くのワークショップ手順等を解説しています。

インクルーシブデザイン：
社会の課題を解決する参加型デザイン (2014年／学芸出版社)
著者・編集：ジュリアカセム、平井 康之、他
製品やサービスの対象から無自覚に排除されてきたユーザーを、設計や開発の初期段階から積極的に巻き込もうとするインクルーシブデザインの入門書です。

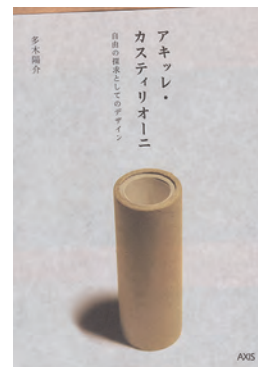


デザインマネジメント (2014年／日経BP社)

著者：田子 學、田子 裕子、橋口 寛

プロジェクトに対して、デザイナーの視点と経営者の視点が並行して書かれていて、経営者がデザイナーによってどう変化し、お互いがどのように共通解を導こうとしたのか、その過程が面白いです。

アキッレ・カスティリオーニ自由の探求としてのデザイン
(2007年／AXIS)
著者：多木 陽介
人とモノ、あるいはモノと空間を常に念頭に置くイタリアデザインの巨匠アキッレ・カスティリオーニのデザイン思想は、世に言われる「デザイン思考」そのものかもしれません。川合先生お勧めの一冊！



上：写真提供 水野 順子さん (2015年度卒業生)
下：写真提供 姜 幸さん

「神戸のB面を巡るKUDE(食うデ)学習会」

9月24日、神戸のB面とも言えるディープな街「新開地、湊川」を拠点に学習会を開催しました。

この学習会は、神戸の台所と親しまれる東山商店街を散策しながら、それぞれが見つけた美味しそうなものを買いあつめ、上田篤先生が設計された荒田公園でピクニックしながら食べるという、とっても食デな学習会でした。公園では、上田先生から公園の設計や企画について、どういう目的でつくられた公園なのかなどのお話を伺うことで普段立つことのない「公園を創る側」の目線を知れたのも大きな収穫でした。

この他にも、近くの湊川公園で開かれている手しごと市やショップ誘致を目的としたリノベーション施設 Otonari など見学し、最後は皆の希望により、最もディープな地下の卓球場で汗を流して終わる。という、いつもとは少し違った結構盛りだくさんな学習会となりました。

私にとっては、初の学習会企画でしたが在学中に学習会を企画できたことも大きな経験となりました。お付き合いいただいた皆様ありがとうございました。(姜 幸 2013年度生)



2016年
夏の学内イベントから





1

第7回京都造形芸術大学通信教育課程 卒業生・修了生 全国公募展 2016年8月6日（土）～8月20日（土）

今年度も夏の恒例行事である「京都造形芸術大学通信教育課程 卒業生・修了生 全国公募展」が京都・瓜生山キャンパス人間館1階のギャルリ・オーブで開催され、「スポンジ」をテーマとして全国から集まった作品51点が二週間に渡って展示されました。空間演出デザインコースの卒業生からは、鈴木陽規さん（2009年度卒業生）が『musubi! 知の泉を留めおく』を出展されました。

また、公募展初日となる8月6日の18時から、こちらも夏の恒例行事である「瓜生山親睦会」が開かれ、全国公募展入賞者への表彰式や、初めの試みとしてアトラクション（和の伝統文化コースの卒業生による尺八演奏・日本舞踊の披露）が行われました。参加者全員による乾杯が行われたのが、それらの終了後となったため、上田先生による乾杯の挨拶が遅い時間になったのは想定外でしたが、コースを越えて在校生・卒業生・教員が交流し、夏の夜のひとときを過ごしました。

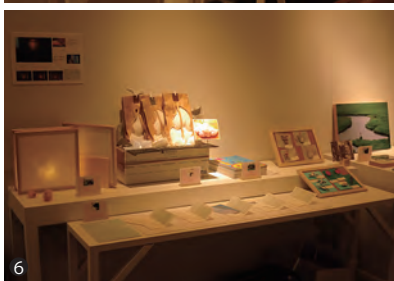


1：ギャルリ・オーブで歓談中の参加者
2～3：全国公募展授賞式とアトラクション中の一コマ

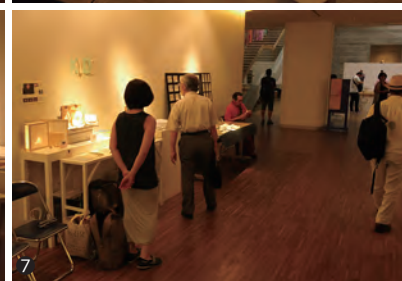
アートフェア 「アート・マルシェ」 2016年8月6日（土）～8月7日（日）

全国公募展は卒業生・修了生のみが参加できる夏のイベントですが、今年度から在校生も参加できる夏のイベントとして「アート・マルシェ」が瓜生山キャンパス人間館1階のギャルリ・オーブ前のエントランス通路を会場として開催され、空間演出デザインコース在校生・卒業生有志が出店しました。

一日目は全国公募展初日で、また瓜生山懇親会の開催日だったため、来場者が多く、作品を手取るだけでなく購入されていく方も多かったのですが、二日目は通学部の入試と日程が重なったことで来場者が寂しい状況となりました。しかしながら、初の試みであるにも関わらず参加7組のうち本コースが3組を占めるとともに、課題や仕事で多忙な中でも多数の方々に作品制作と当日の設営や販売への協力をいただきました。



4：アクセサリや小物など身につけるものがメインのブース。
宮島 義直さん（2014年度生）の団扇は完売！
5：花房 澄夫さん（2014年度卒業生）の金工作品。手業が光ります
6～7：紙ものがメインのブース。この後、尾池学長にお買い上げいただきました！



空間演出デザインコース特別講義2016

■京都

第15回ヴェネチア・ビエンナーレ
凱旋特別講義「Space of Nexus」
○日時：2016年8月13日（土）
○講師：家成 俊勝 先生



家成俊勝先生のプロフィール（本学サイトより）
1974年兵庫県生まれ。2004年より dot architects を共同主宰。建築における設計、施工のプロセスにおいて専門家、非専門家に関わらず、様々な人々を巻き込む、超並列設計プロセスを実践。また建築を専門としながらも他分野の人々との協働プロジェクトにも多く関わる。

■東京

「そこに在る空間演出デザイン」
○日時：2016年8月27日（土）
○講師：吉添 裕人 先生

東京では、昨年度まで東京のコース業務担当非常勤教員をされていた吉添裕人先生から、今まで手がけてきた仕事の事例を紹介いただくとともに、空間演出デザインとは何か、あるいは大学や過去の仕事の経験がどのように活かされているのかなどを講義していただきました。

吉添先生は、プランニング、アートワーク、ディスプレイデザイン、パース、ロゴデザイン、イラストレーション、そして個人制作という7つの仕事を手がけているのですが、それぞれの要素が独立している訳では無く、例えば、カーベットのデザインを決定する際に置かれる椅子を考慮するとか、展示する空間とアートワークの関係性とか、その要素が空間全体のなかでどのように存在しているのかを常に意識されているとのこと。また、ディズニーランドを例とした商業施設のセオリーや動線・目線の考え方など、具体的に丁寧な説明で参加者も大満足の講義となりました。

国際デザインコンペ「LEXUS DESIGN AWARD 2016」入賞作品がテレビで紹介されるなど、これからの更なるご活躍が楽しみです。

今年の5月から開催されている「第15回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展」の国別参加部門において、日本館が特別表彰を受賞しました。

この日本館へ出展されたドットアーキテクツを、赤代武志氏、土井亘氏、寺田英史氏とともに共同主宰されている家成俊勝先生をお招きしての特別講義でした。今回のヴェネチア・ビエンナーレのテーマや出展作品を俯瞰したあと、日本館のテーマと他の出展作家の紹介、そしてドットアーキテクツの作品解説と、濃密な内容となりました。

今回のヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展のテーマは「Reporting from the Front（前線からの報告）」。

そのテーマに呼応して日本館は、山名善之氏をキュレーターとして多様な意味を持つ「縁」をテーマに現在の日本建築の「前線」を提示しました。

家成先生が出展された Umaki camp は、瀬戸内国際芸術祭2013の出品作品としてドットアーキテクツが設計・施工したそうですが、工場で大量生産するにはお金が必要、職人が少量生産にするは技術が必要ということから、自分達で安価に作る方法を考えたとのこと。みんなで作れるということから、建築中は周囲の住民が行き交うオープンな現場となっていたそうです。

また、Umaki camp ではメディア（人と人とを繋ぐ仕組み）として、山羊、野菜（自由台所）、ラジオ局、AHA（人間の営みのためのアーカイブ）、映画（ご近所映画クラブ）を活用することで地域住民との繋がりを深めたとか。芸術祭の終了後も、町長から「新しい地域実験の場になる」との言葉が有り、今も存続しています。

なお、「第15回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展」は11月27日までの開催となっています。



吉添裕人先生のプロフィール
1986年東京都生まれ。武蔵野美術大学造形学部空間演出デザイン学科卒業。(株)乃村工藝社を経て、現在フリーランスの空間・インテリアデザイナーとして活躍中。



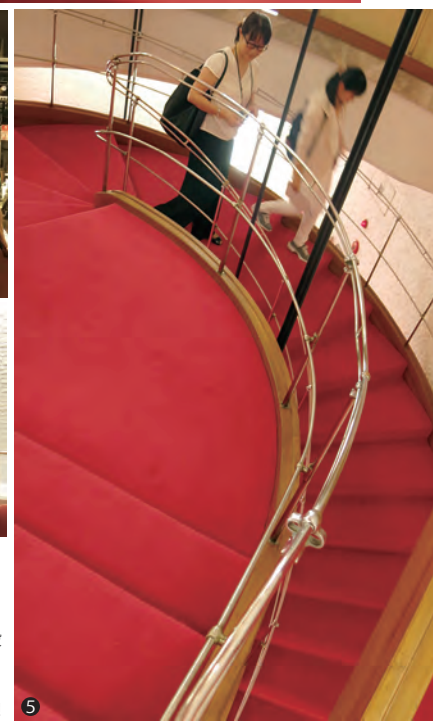
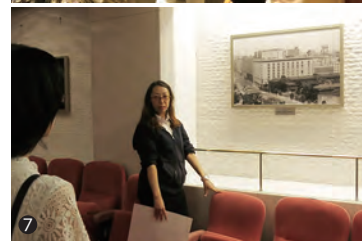
学習会報告 「日生劇場学習会—モダニズム建築の 様式美と舞台演出に触れる」 2016年8月20日（土）

在校生の齊藤博之さん（2015年度生）が東京日比谷にある日生劇場の現役舞台監督ということから、学習会幹事の沖英成さん（2013年度生）が日生劇場内の見学を熱烈オファーをしていたのですが、この8月に調整が付いたことから見学会を兼ねた学習会が開催され、都内近郊のみならず関西など遠地から在校生、卒業生30名以上が参加しました。当日は齊藤さんともに日生劇場スタッフの小野さんに劇場内を案内して頂きました。

この日生劇場は、日本を代表する建築家である村野藤吾によるもので、ホールは壁面・天井における有機的な曲面や使用されている素材によって強い印象を受ける空間となっていました。それ以外にもホールに至るまでのエントランスやロビーなど様々な場所で細部にこだわりの見ることが出来ました。特に階段においては曲線・曲面の美しさや繋ぎ目の無い手摺など見るべき点が多いものでした。また、齊藤さんからは、普段目にすることができないステージ裏をスタッフならではの様々なエピソードを交えながら案内頂きました。

日生劇場の後は帝国ホテルや銀座のエルメス、ライカ銀座店などを見学しました。ライカ銀座店は東京の「ライティングデザイン」「ショップデザイン」のスクーリングをご担当の榊田倫之先生が設計に関わられています。

銀座での自由行動の後、有志による懇親会を行い親睦を深めました。



1：日本生命日比谷ビル外観
2：1階ロビーから階段。手摺の高さに注目！
3：2階観客席からホール内を観賞中
4～5：2階ロビーから3階ロビーへと続く階段
6：ステージ横で齊藤さんが説明中。
活発な質疑もありました
7：日生劇場の小野さんの丁寧な説明に感謝！

日生劇場は建築家村野藤吾（1891－1984）の設計により、1963年9月に竣工した日本生命日比谷ビル内にあります。劇場の中は壁も天井も全て曲面で構成され、壁面はガラススタイルのモザイク、天井には色付きの石膏に二万枚と言われるアコヤ貝が貼ってあり、他の劇場には無い独特の幻想的な雰囲気を生み出しています。（日生劇場のwebサイトより）
<http://www.nissaytheatre.or.jp/hallguide/theater.html>

空デエクスカーション 参加者募集中

毎年恒例となりました秋の空デエクスカーションを下記の日程で開催します。ご都合が合う方は、課題制作の息抜きや気分転換を兼ねて、奮ってご参加ください。

事前申し込みが必要となりますので、詳細はサイバーキャンパスを確認してください。

【関西】

- 内容：国際芸術祭 BIWAKO ビエンナーレ 2016 散策
- 日時：11月3日（木・祝）10：00～16：00
雨天決行（注意事項参照）
- 集合場所：JR 東海道線・琵琶湖線「近江八幡」駅
改札口前に10時集合
- 行程：
10時 JR 近江八幡駅改札口前に集合
バスにて近江八幡旧市街に移動し、BIWAKO ビエンナーレ近江八幡エリア各所の作品を徒歩で見学。
16時 JR 近江八幡駅にて一旦解散。
その後、懇親会の予定（自由参加）
- 持参物：飲み物、ビエンナーレパスポート料金（2500円）、学生証、健康保険証、カメラなど
- 参加申込締切日：10月27日（木）

【関東】

- 内容：画家・作家のアトリエ空間逍遙
- 日時：11月3日（木・祝）13：30～18：00
雨天決行（注意事項参照）
- 集合場所：JR 山手線「目白」駅
改札口前に13時30分集合
※各自あらかじめ昼食を済ませておいてください。
- 行程：
13時30分 各自昼食後、JR 目白駅改札口前に集合
中村彝アトリエ記念館、佐伯祐三アトリエ記念館、林芙美子記念館（設計：山口文象）、池袋モンパルナスアトリエ及び春日部幹アトリエ（改修設計：春日部幹）を徒歩で見学。
18時 一旦解散。
その後、懇親会の予定（自由参加）
- 持参物：飲み物、入館料（150円）、学生証、健康保険証、カメラなど
- 参加申込締切日：10月27日（木）

■注意事項（関西・関東共通）

- ・ある程度の距離を歩きますので、歩きやすい靴と温度調節しやすい服装で参加してください。
- ・当日の午前10時の時点で【関西】滋賀県南部【関東】東京23区に警報発令など荒天の場合は開催中止とします。判断がつかない時などは、申し込み後に返信するメールに記載の緊急連絡先に電話をしてご確認ください。

●BIWAKO ビエンナーレ 2016

テーマ：見果てぬ夢（英名：Eternal Dream）
会期：2016年9月17日（土）～11月6日（日）
●BIWAKO ビエンナーレは2001年からスタートしました。
会場となる近江八幡旧市街は、江戸期に建てられた町家が軒を連ね、国の重要伝統的建造物群保存地区になっていますが、市内には多くの空き町家が点在し、改築されたり、駐車場へと姿を変えたりという状況も見られるそうです。
放置された建物を地元住民や有志の手で清掃を行った後、国内外から集まるアーティストがその空間を作品化していくことで、貴重な建物の保存と活用を試みようというのが BIWAKO ビエンナーレのコンセプトとのことです。建築を含めた空間としての作品を楽しんでください。
（参考文献：BIWAKO ビエンナーレ 2016 企画書）

空楽々 編集室

Kurara Editor's Room

ドリル大学習会!!



ドリル（『図形ドリル』）に着手中、あるいは未着手の方に向けて、空デ研究室教員が立ち会ってのドリル大学習会を開催します。事前申し込み不要で、時間内であればいつからでも参加 OK です！
「めざせ今年度中の提出！ あきらめるな今年度中の提出！」

- 日時：京都・東京同日開催
2016年11月26日（土）13：00～17：00
※京都の教室は10時から開放します。開放中の自習歓迎します！
- 会場
京都：瓜生山キャンパス人間館 NA406 教室
東京：東京外苑キャンパス 1 階エントランスホール
- 参加教員
京都：上田篤、他
東京：川合健太、他
- 持参物
『図形ドリル』
各自必要な道具

KUDEオープンゼミ



オープンゼミでは、履修方法やテキスト科目、その他なんでも相談を受け付けています。気軽に相談に来てください。

■京都

- 日時：2016年10月15日（土）17：00～19：00
2016年11月12日（土）17：00～19：00
2016年12月17日（土）17：00～19：00
2017年1月7日（土）17：00～19：00
2017年2月4日（土）12：30～14：30
会場：瓜生山キャンパス人間館 1 階ラウンジ
担当教員：上田篤、他（予定）

■東京

- 日時：2016年10月8日（土）17：00～19：00
2016年11月19日（土）17：00～19：00
2016年12月10日（土）13：00～15：00
2017年1月15日（日）17：00～19：00
2017年2月11日（土）17：00～19：00
会場：東京外苑キャンパス 1 階エントランスホール
担当教員：川合健太、他（予定）

事前申し込みは不要です。参加希望者は時間内に直接会場へお越しください。また、日程・会場が変更となる場合がありますので、サイバーキャンパスで事前に確認してください。

編集室から



お弁当でお世話になってます（左：片岡さん）

- 学校法人瓜生山学園は2017年で開学40周年を迎えます。
この節目となる年を前に、卒業生と喜びを分かち合おうとのことで、瓜生山キャンパスにて「第1回ホームカミングデー」が10月9日に開催されます。
- 当日は「アート&デザイン」×「食」の可能性をテーマとした卒業生によるケータリング&屋台が設置される予定で、2015年度卒業生の片岡さん（シンパカフェ）も出店予定です。シンパカフェは外苑キャンパスのお弁当販売でもお世話になっています。何が出るか、お楽しみに。
【表紙の色 韓紅花（からくれなひ）】

それは現場目線で考えられているのか？



本学を卒業して約一年半、取得した美術科の教員免許を生かして私立高等学校の美術科教員として職に就いている。実は勤務校は今年度四月から校舎が移転し、それはそれは真新しく、最新の設備が配された校舎で毎日を過ごしている。全面ガラス張りのファサードはモダンな印象を与え、庭には季節の植物が所狭しと植えられている。第一トイレは自動で蓋が開くようになるなどと、昨年の古い校舎にいた時からは予想もしていなかった。しかし、そんな最新の設備を以ってしても生徒や教員からは疑問符を投げかけるような言葉を少なからず聞くのである。

例えば玄関前のスロープは主に車椅子を使用する際に付けられたものだというのは想像に難くない。しかしながらそのスロープに到達するまでに広がる石畳や枕木が一定間隔に敷かれている芝は何故造られたのか。はたまた幅が狭く校舎中央一か所にしかない階段は、移動教室で数クラスが動く程度なら差し支えないものの、全校集会の際の移動では芋の子を

洗う状態にまで陥りかねないため、教員は気を張っていなければならない。

その校舎で毎日を過ごしていてふと考えるのは、私が製作したものは周囲を散らかさないか、ということである。物理的にはもちろんのこと、精神的にも、である。デザインがベースにある、ということは人を思う気持ちが形や色、更には世に出た状態を決定しているのであり、自分の美的感覚は一步下がった場所ですべてを包括している状態でありたいと考えている。しかし、製作過程においてタスクに気を取られ、「想い」という名の自分の欲が無意識のうちに漏れてくる事がままある。「想い」が無ければ製作の過程を走りきるのとは不可能だが、強すぎるそれは時に崩れぬ壁となつて、人同士の意思疎通を阻む。

自らの気持ちを顧みると共に、設計者の「想い」を随所に感じる校舎で過ごしながら、一筆認めた次第である。

文・写真
二〇一四年度卒業生 伊藤 博実

もてなし時間